

# 令和5年度 八代市議会経済企業委員会 視察報告書

## ■視察日程

令和6年1月22日（月）～24日（水）

## ■視察先

1月22日 午前 岡山県岡山市

1月22日 午後 岡山県瀬戸内市

1月23日 午後 山口県岩国市

## ■視察参加者

【委員会】委員長	古嶋津義
副委員長	木村博幸
委員	上村哲三
委員	金子昌平
委員	谷口徹
委員	中山諭扶哉
委員	村川清則

【随 行】農林水産部長	尾崎行雄
議会事務局	島田義信

## ■視察先及び目的

### 1 岡山県岡山市

#### 『就農サポートセンターについて』

農業の担い手不足は、本市に限らず、多くの自治体が抱える共通の課題である。岡山市においては、就農サポートセンターを設置しており、専門の相談員を配置し、就農に向けた事業化のアドバイス、就農計画の作成支援、研修のコーディネート及び各種補助金の活用支援などを行っている。

本市においては、基幹産業である農業の振興のため新規就農者の相談・支援業務や農業全般の相談・支援業務に対応するため、営農支援室が設置されていることから、岡山市の事例を参考にし、今後の委員会活動に生かすことを目的に視察を実施する。

### 2 岡山県瀬戸内市

#### 『有害鳥獣被害の概要とその対策について』

本市においても、近年、中山間地域においては、イノシシや鹿などによる農作物等の被害が、増加傾向にある。しかし、捕獲・駆除を行う担い手が不足しており、今後の視察や地域との連携、行政の関わり方を検討する必要がある。

瀬戸市においては、耕作放棄地の増加などに伴い、鹿、ヌートリア、カワウなどの鳥獣被害が拡大しており、被害防止対策として有害鳥獣被害柵設置事業による支援事業等を実施されていることから、瀬戸市の事例を参考にし、今後の委員会活動に生かすことを目的に視察を実施する。

### 3 山口県岩国市

#### 『岩国市における観光振興施策について』

昨今の地方の観光振興施策においては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、大きな変化が生じている。それに伴い、国内観光客や外国人観光客も戻りつつある。

岩国市においては、令和5年度に産業振興部の中にシティプロモーション課を新設し、観光振興のみならず、移住・定住の推進、イメージ戦略構築などの取組を推進されている。

本市においてもさらなる観光客の誘客に向けて、様々な観光振興施策に取り組んでいることから、岩国市の事例を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的に視察を実施する。

# 岡山県岡山市

---

1 視察日時 令和6年1月22日（月） 10:30～12:00

2 調査事項 『就農サポートセンターについて』

3 調査内容（説明内容）

※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

**Q1 農業人材マッチング促進支援事業について、保険料と保証内容を教えてください。**

**A1** 保険料については、岡山市で補助する内容は、農業者の方がお支払いされた保険料の2分の1、または、3万円のいずれか少ない額を助成している。

農家さんが負担する額は、保険会社によって異なるが、JAにお願いをする場合、前年度の所得が1000万円を超える方で、約1万円ちょっととなる。農家の方は旅行に行つて事故を起こした場合も、保証の対象となる。それ以外の方は、農業アルバイトに来る時から帰るまでの間、保証をする内容となっている。

法人など大きな農家の方は、既に労働災害保険に加入されているので、その場合は、すぐにマッチングに登録が可能となる。

**Q2 就農相談を東京、大阪などで行つておられるが新規の就農者数に関して、Iターン、Uターンにつながっているのかの点から、就農者数の市内外の内訳を教えてください。また、農地を購入できない場合の対応はどうなるのか。**

**A2** 市内在住で新規の方、県外から来られる方、跡取りの方と色々なパターンがあるが、県外から、就農につながるのは1～2人。故郷が岡山の方が、多い。誰かしら知り合いがいて、岡山に馴染みがあるので、岡山に帰つてきたという内容が多い。馴染みが全くない方が、1～2人、岡山のシャインマスカットを作りたいという強い要望の方もおられる。

農地の件については、国制度の場合は受け入れ農家さんが中間管理機構を介して、受け入れ農家さんの名義で土地を借りられ、植え付けをすることとなり、1～2年後に名義を切り替えることが多い。岡山県の場合は、農地が用意できる方の調査を年間1～2回行っている。シャインマスカットを作りたいという方がいた場合、その地域に住めますかという調査から入っていき、自分の好きな場所で作る場合は、技術の相談ができる方を紹介する。それから面接後、受け入れを行つていくという形にしている。

**Q 3 就農希望者の年齢層はいかがか。**

A 3 年齢層は、30代から40代後半まで。50歳を超えると事業に乗っていけないので、自己資金で対応できるかどうかとなる。30代の方でないと、40後半であれば、一人前までになるまでに期間が必要となるため、自己資金に余力がないと厳しい。40代であれば、国の事業で2年間の研修があるが、1年間で切り上げて営農に入っていく形で、場所の選択肢が狭まる。受け入れ農家さんは、奥さんに手伝ってもらって考えは持たず、40～50代になって、自分でできる範囲で行うようにとよく言われる。

**Q 4 小規模農家が多い中で北区と中区に関して、大規模化、農地の集積化はいかがか。八代市では、農家を辞めた方から農地をお借りして、組織化することが行われているが、そういった支援をされているのか。**

A 4 中区は農用地がないので、農家の方の意識が高くない。認定農業者の方も北区、南区、東区の方が多い。現状、支援を求める声は、農家の方からは聞こえてこない。農地集積に関しては、地域計画で行っており、南区は地域計画が完了している。

**Q 5 農業人材マッチング促進支援事業について、JAさんと求職者をマッチングさせるということで、求職者の方にはこのアプリを知っていただくことが必要と思うが、アプリを知ってもらうための取組とマッチング件数を教えていただきたい。**

A 5 農家の方がアルバイトの募集を出すと、5～10件の応募がある。これ以上宣伝を行うと、募集案件が少ないため、PRをすることが無駄になってしまうことから行っていない。国の方も、農業人口を増やすため、この事業に取り組んでいるが、企業が知名度を上げるために、企業を押しして副業として、農業に向けて、推進しているのが現状。農家の方は、応募者の中から選ぶことになり、評価をする形になる。岡山は、零細農家が多いことから、案件が少ない。違う市外からアルバイトに来る方もいらっしゃる。農家の方も、応募者もアプリの利用料は無料のため、大きな農家をお持ちの行政の方であれば、効果的に利用できると思う。成約すると農業者さんと直接やり取りすることとなる。

#### ※別添資料

- ・ 調査事項（回答）

※視察の様子



## 岡山県瀬戸内市

---

1 視察日時 令和6年1月22日(月) 15:00~16:30

2 調査事項 『有害鳥獣被害の概要とその対策について』

3 調査内容(説明内容)  
※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

Q1 ヌートリアの概要と従事者講習について、御教示いただきたい。

A1 ヌートリアは、大きなネズミで、原産地がアメリカ。もともと毛皮用で輸入されたものが野生化し、瀬戸内市を含めた岡山県全域において、被害が出ている。鳥獣管理法では、ネズミとモグラ以外は、捕獲できないが、瀬戸内市では、ヌートリアを特定外来生物に指定している。国から認可を受ければ、市に権限移譲されることから瀬戸内市においては、農業従事者の方が講習を受けていただき、被害防除に取り組んでいただいている

Q2 鳥獣被害対策実施隊30名中、市職員9名ということで、御本人の希望か。それとも、担当者が従事されているのか。また、異動された場合は、増えていくになるか。

A2 9名というのは、産業振興課の全職員で、担当課全員が実施隊となる。人事異動に伴い、名前は変わっていく。

Q3 貴市と八代市では、鳥獣被害も違う。八代市の場合、海岸から田畑と広範囲に渡る。令和2年7月豪雨災害で坂本町も家屋が少なくなってしまったため、害獣が民家に降りて来ている状況。貴市の防護柵設置の取組はいい取組だと思う。八代市においては、個人で設置補助の申請ができないことから、進んでいない現状にある。また、鳥獣被害対策実施隊について、銃器の割合はどうなっているのか。

A3 瀬戸内市の場合は猟友会があり、その中に駆除班がある。その駆除班が猟期以外は、許可を出していないので、猟友会全体が捕れるわけではない。猟期中が過ぎた場合に、実施隊30人で行っている。その中には、銃を持っている方も罠を持っている方もおり、割合は半々程度。

Q 4 お配りいただいている害獣被害防止パンフレットは素晴らしいと思うが、これは執行部で作成されたのか。また、罾についても箱罾、くくり罾があるとと思うが、本市においては、工業高校が猟友会と共同で箱罾を作成し寄贈いただいているという取組があるが、貴市ではいかがか。

A 4 セミナーの講師の方の参考文献を基に執行部で作成した。駆除班が、現場に出向き、罾を設置する前に、防止柵設置を進言しており、浸透してきたと思う。

現在、市内には工業高校がないことから、普通高校のみであり、現在は箱罾を寄贈いただいている事例はないが、その他の市の事業には、様々な協力をいただいている。

Q 5 御説明の中で、飛躍的に捕獲頭数は伸びているが、山間部の空き家の状況はいかがか。私自身は、平野部に住んでいることからイノシシや鹿の被害はないが、イタチ、タヌキ、ハクビシンなどが空き家に入り込んでしまい、人が住めない状態になってしまう状況がある。

A 5 空き家の調査については、危機管理課が調査を進めている。空き家をほっておくわけではなく、特定空き家に指定できれば解体等の措置を行うことができるため、なるべく空き家がでないよう、対策を行っている。また、移住者向けに空き家を紹介する取り組みも行っている。それでも、山間部も空き家が増えているが鳥獣被害が出ているという情報は、今のところない。

#### ※別添資料

- ・ 調査事項（回答）

※視察の様子





# 山口県岩国市

---

1 視察日時 令和6年1月23日(火) 13:30~15:00

2 調査事項 『岩国市における観光振興政策について』

3 調査内容(説明内容)  
※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

**Q1 シティプロモーションを始められたということで、岩国観光プロモーション推進協議会との連携はいかがか。**

**A1** 岩国観光プロモーション推進協議会は外部団体で、岩国市には観光協会が5つ存在している。そこで、一括的なプロモーションができないということが課題であると、ビジョンをつくる策定員会の中で問題となった。今までのいきさつもあって、合併が難しいことから、新しい組織が必要ということで、当時、観光プロモーション戦略協議会が作られた。この構成メンバーは、各観光協会と商工会議所内にある文化観光協会とされた。当時、ANA 総合研究所から1名派遣をいただき、観光マネージャーとして招聘し、支援員2名を公募し、市全体のプロモーションをやっていこうとした。当時の支援員の方が継続的にいらっしゃり、市から約800万円の補助金を支出し、岩国市の観光振興課と連携し、それぞれの観光協会との連結役になるように取組を進めている。組織の合併にはいたってない中、今後、協議会をどのようにしていくかが、これからの課題である。

Q 2 ブラタモリの話があったが、この件について、NHK が独自に企画をして御市に協力を求められたのか、また、番組内容で錦帯橋は、武家屋敷と岩国城を結ぶ橋であったという案内があったが、城下町を生かしたプロモーションはされているのかを伺いたい。

A 2 ブラタモリについては、岩国市の観光振興課が所管となるが、フィルムコミッションの登録をして、各撮影に関しては、フィルムコミッションに申請があり、協力を行った。実際は、観光振興課が窓口となり、NHK とやり取りを行ったが、庁内連携して、説明に文化財保護課の学芸員が、タモリさんの質疑応答を行った。内容については、全てNHK の企画。錦帯橋のモデルになったのは眼鏡橋ということで取り上げられたが、地元では中国の島を橋で渡しているものをヒントにして、橋でつなぐこととなったのが、一般的には有力とされている。眼鏡橋の話が取り上げられたのも、タモリさんが九州の出身ということもあり、錦帯橋をあのかたちで建設する1～2年前に、眼鏡橋を見に行ったという歴史ものこっているのを参考にしてないわけではないという学芸員の見解もある。番組の構成上、そちらの方が面白いということから、その話が取り上げられた。

武家屋敷と分かれているということで、錦帯橋については、街並みを見ていただく必要があるということで、取組を進めている。過去、錦帯橋のみで来られて、立ち寄り観光であったことが課題と考えている。色々なところを歩いていただき、滞在時間が延びれば、お金が落ちるということで、今は渡った後でもロープウェイやお城、ソフトクリーム屋さんが有名だが、そちらで遊ばれる方もいらっしゃるが、渡る前も歩いていただきたいということで、ランドデザインを策定し、無電柱化や下水道整備などを進め、出店者の拡大の取組を行なっている。

また、岩国地区側にバス用の駐車場を整備中である。

Q 3 5つの観光協会の合併ができない弊害は何か。

A 3 岩国市観光協会については、独立した一般社団法人。他の協会については、もとの商工会の職員が兼務して事業をやられているところがあり、商工会と商工会議所も合併できないが、それぞれの協会の会費の取り方、メンバー構成があり、合併をしようとして動いていたが、現状は難しい。そのため、それぞれが活動しながら、とりまとめを行う形でプロモーション推進協議会が皆さんのジョイント役をやっている。

Q 4 インバウンドが2～3万人ということで、八代市から見たら意外と少ないように感じるが、インバウンドを増やすような対策はされていたのか。

A 4 インバウンド対策については、直接的なプロモーションはできていない。現在の取組としては、ホームページの4ヶ国多言語化や周辺看板の多言語化に取り組んでいる。新たな看板については、日本語だけの表記をして、QRコードを付けている。海外でも目的地を起点に調べられるので、宮島観光協会ホームページのアクセスマップに依頼をし、多言語化の錦帯橋の記事を掲載している。

Q 5 岩国市観光客動態調査報告書ということで、観光アンケート調査を非常に詳しくされているということで、調査報告ということで岩国観光ガイドボランティア協会に依頼されているが、委託費を伺いたい。また、動態調査の実施頻度を伺いたい。

A 5 岩国観光ガイドボランティア協会に業務委託により調査やガイドを行っていただいている。岩国のガイドボランティアは無償で行っている。会長も理解を持って進めていただいております、ガイドの方々も誇りを持って対応いただいている。金額については、100万円弱である。

動態調査は、毎年行っており、観光のホームページでPDFで毎年公開している。

Q 6 観光ビジョンの中のJR在来線岩国駅と新幹線の新岩国駅の距離が離れている。錦川清流線があるが、こういった鉄道を生かした観光について、どのような考えをお持ちか。

A 6 JR新岩国駅は新幹線の駅となるが、新幹線の駅が岩国駅についていたら、どんなによかったかと思う。結果論的に、離れているというところがあるが、山口県は新幹線駅がたくさんある。新岩国駅があることがすごいとよく言われる。結果的に岩国駅までつながっていたらもっと栄えたということがある。

錦川清流線は、過去には岩日線というものが整備されていたが、赤字路線となることから錦町まで整備が中断された。JRから路線を残すということで、第三セクターとして、錦川清流線が錦川鉄道株式会社という形で残っている。

景観をよくて、県事業で整備した清流みはらし駅があり、滝が見えるようになっている。また、錦川駅の先に、観光列車として、土・日・祝日に「とことこトレイン」を走らせている。

※別添資料

- ・ 調査事項（回答）

※視察の様子



委員名【古嶋津義】

- ◆視察日：令和6年1月22日（月）
- ◆視察先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

### (1) 就農サポートセンターの概要

平成21年1月、新規就農希望者及び新規就農者への支援体制をより強固なものにするために設置。

地域農業企画・振興室 担い手育成業務担当職員と連携し、「就農に向けた構想へのアドバイス」や「青年等就農計画の作成支援」、「研修のコーディネート」、「各種補助金支援」などに取り組んでいる。

### (2) 就農サポートセンターの取組や具体的な就農支援内容

就農に関する相談やフォローアップを行う窓口となる就農サポートセンターが設置され、就農希望者に対する総合的な支援を実施。具体的な就農支援内容は、○就農に向けた<sup>構</sup>想へのアドバイス（栽培作物と就農地の選定など）、○新規就農希望者体験研修事業（岡山市独自事業）

○就農促進トータルサポート事業。○青年等就農計画の策定支援。○各種補助金の活用支援として新規就農者育成総合対策、新規就農者サポート事業(岡山市独自事業)等の支援メニューがある。

### (3) 新規就農希望者の募集策

岡山市内での新規就農を希望される方を対象に、  
○農業インターンシップ研修(実地での農業体験の機会を提供する研修) ○先輩就農者インタビュー研修(就農から6~10年程度<sup>経過した</sup>農作業体験談を対談形式で伺う機会を提供する研修)。又、農業者サイトでは人手不足解消を、求職者サイトでは農業に触れる機会の拡充や就農に向けた意欲向上を目的とした、岡山市農業人材マッチング促進支援事業がある。

### (4) 今後の課題・展望

課題としては、温室施設の老朽化があげられる。荒廃農地を生む要因である当該問題の解消にかかる支援を継続・拡充し、産地の再活性化につながる取組が重要。

◆視察日：令和6年1月22日（月）

◆視察先：岡山県瀬戸内市

◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

## (1) <sup>被害の</sup>有害鳥獣概要

ニホンシカ・イノシシ・ヌートリア・タヌキ・アナグマによる農作物（水稲、野菜、果樹類）への被害が市内全域で見られる。近年は民家近辺での出没も発生。ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、カワウ、カモ等鳥類による野菜、果樹、魚介類への被害も一部地域で見られる。

## (2) 対策

○「捕獲等に関する取組」鳥獣被害対策実施隊を編成し、銃器による捕獲、追払い活動及びくくりわな、箱わなによる捕獲駆除活動を実施。捕獲補助金制度<sup>も</sup>導入している。

○「防護柵の設置等に関する取組」市内全域において、個別柵（ワイヤーメッシュ、トタン板、電気柵等）による被害防除の取組み、防護柵設置に対する

助成金制度を導入している。又、単果事業を活用して集落柵を設置し、広域的な被害防止に取り組んでいる。○「生息環境管理その他の取組」専門家を招いた講習会、セミナーを開催し、鳥獣被害対策のための環境整備の啓発を行っている。又、集落として緩衝帯整備、放置果樹除去、鳥獣の潜み場除去を実施する団体に対して、助成金制度を導入している。

### (3) 捕獲実施者や地域との連携

実施隊の連携体制整備や集落一体となった広域的な防護柵設置の推進。鳥獣被害対策としての環境整備の必要性・重要性の啓発活動など。

### (4) 今後の課題・展望

狩猟者の減少及び高齢化。処理加工施設の整備。生活環境に影響がでている(車両との接触事故)等が課題であり、今後はICT化を推進(少ない人数でも質を担保)



◆視察日：令和6年1月23日（火）

◆視察先：山口県岩国市

◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

## (1) 観光振興施策の概要について

岩国市では、観光交流人口の拡大、観光情報の発信、体験型観光の推進、観光・交流設備の充実などに取り組んでいる。主な取り組み内容「錦帯橋の世界文化遺産登録に向けた活動の推進」「広域観光ルートの設定」「市域内観光ルートの設定」「錦帯橋のう創の保存・伝承」「観光イベントの充実」「効果的な情報発信の充実」「案内板等の多言語表記」「体験型旅行の誘致」「観光アプリケーションの充実」「観光施設の整備」等に取り組んでいる。

## (2) 錦帯橋などの観光素材の活用法について

錦帯橋周辺地域におけるソフト事業として体験メニューの充実や祭り・イベントの実施、岩国城の魅力向上に関する検討を進め、錦帯橋周辺の魅力を高めることで、観光客の滞在時間の延長、宿泊客の増加をめざす。又、米軍岩国基地と連携した市内

資源調査や言語対応状況調査など、基地内

住民をモーターとして外国人視点での魅力の再発見を

行い、外国人観光客の受入態勢の整備につなげる。

(3) 南係団体や周辺自治体等との連携について

萩・津和野や県内近隣観光地とともに、世界遺

産である厳島神社(宮島)、原爆ドーム(広島)近接性

をPRし、岩国錦帯橋空港の観光利用を促し、首

都圏からの誘客を図る。観光地間のスムーズな移動

ができるように、JRやバス会社と連携し、広島、宮島との

アクセス面での向上を図る。又、外国人観光客誘致に

向けるとは、訪日旅行者の多い台湾などの東アジアからの

誘客を図るとともに、近接する広島市や廿日市市への

欧米系外国人の割合の高さや米軍岩国基地の立地など

を活かした欧米系外国人観光客の誘致を進める。

(1) 今後の課題・展望

錦帯橋の入橋者数は年間<sup>約</sup>70万人ですが、宿泊割合は1割

未満、日帰りの滞在時間は4時間以内が約9割であり、

滞在時間の延長、宿泊割合の増加や、<sup>岩田市には</sup>錦帯橋  
以外にも観光資源があるが点状しており、連携が  
不十分である。又、観光客の増加させるためにも、  
近隣地域と連携したプロモーションを行い、広  
域的な集客力を向上させる必要<sup>がある。</sup>~~等、等が課~~  
~~題である。~~

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【上打哲三】

- ◆視察日：令和6年1月22日（月）
- ◆視察先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

岡山市では、新規就農推進にむかひ組織体制は、産業観光局にあり、農林水産部、農林水産課が「地域農業企画・振興室」に就農サポートセンターとして位置している。

具体的な内容は、就農に向けたアドバイス、研修のコーディネート、青年等就農計画の策定支援、各種補助金の活用支援等である。

事業概要の内、農業人材マッチング促進支援事業が「日農業バイトネットワークを利用してアルバイトを雇ったJA組合員である農業者に対し、農業者が支払った傷害保険料の一部を助成するJAとのタイアップ事業であった。

「一日農業バイトネットワーク」では、スマートフォンやパソコンが利用するポータルアプリで、労働者を必要とする農業者と、求職者を1日単位で結びつけるサービスがある。

この市では、営業規模も大きく、外国人労働者に頼る分が大きいから、取り組む価値はあるはずと感じた。

◆視察日：令和6年1月22日（月）

◆視察先：岡山県瀬戸内市

◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

近年、瀬戸内市においては、イノシシによる農作物被害が拡大。又、山際の道路や住宅地付近への出没も確認され、イノシシとの突発的な事故を防ぐため「鳥獣被害に強い集落づくりを援業補助金交付要綱をつくり、捕獲だけに頼るのではなく、人里や農地周辺の環境整備や防護柵の設置」といった対策を合わせた「総合的な対策を行なう事」としている。

瀬戸内市は、市域も狭ましく、この市の山間部と比較できないが、鳥獣被害への対応は、概ね理解できた。

- ◆視察日：令和6年1月23日（火）
- ◆視察先：山口県岩国市
- ◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

岩国市については、コンパクトな地勢に有り  
交通アクセスは、JR山陽新幹線、JR山陽本線、  
山陽自動車道、岩国錦帯橋空港等有り、  
観光も、城下町資源(歴史)、岩国城、シロヘビ観覧所、  
豊かな自然(山川)、温泉、峽流、等あらゆる観  
光資源が無数にあり、>にておいては、~~非~~うら  
ましい気持ちになった。

市町村合併後の5ヶ所の観光協会の統合や  
集客～滞在数をアップ出来るパンフの作成  
や~~非~~宣伝方法を期待したい。

# 経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視察日：令和6年1月22日(月)
- ◆視察先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

## ○岡山市就農サポートセンターについて

「岡山市就農サポートセンター」は、平成21年1月に設置。目的は新規就農者・希望者への支援体制を強固なものにするため。産業観光局農林水産部、農林水産課の地域農業企画・振興室に設置している。

同センターは木曜日を除く平日の、午前8時30分～午後5時まで間、JA退職者の総合コーディネーター（会計年度職員）1名が、面談や電話・メールの対応、就農相談会などの業務を行っている。

具体的な支援内容としては、①就農構想（作物と農地）の助言、②研修の開催、③就農計画策定の支援、④各種補助金の活用支援、など。

新規就農希望者の募集策としては、①新規就農希望者体験研修事業、②岡山市農業人材マッチング促進支援事業、がある。

②は、農業者側にとっては人手不足解消を、希望者側には農業就業機会の拡充と就農意欲の向上を目的としている。（求人アプリ「デイワークス」を利用。農業者負担の傷害保険料（体験者等分）の一部を補助）

各種支援事業の直近（R4度）の実績は、①就農相談件数＝219件、②体験研修＝17件、③傷害保険料の一部補助＝19.3万円、④認定新規就農者への助成＝30人、5,694万円、となっている。

利用は地縁者が多いが、農地の確保が最大の課題。「師匠」から譲渡されることもあるものの、50代以上の者にとっては相当の自己資金を要する。

同市が運営する大規模な市民農園は、NHKの番組で取材された。



## 経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視察日：令和6年1月22日(月)
- ◆視察先：岡山県瀬戸内市
- ◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

### ○有害鳥獣被害の概要とその対策について

平成16年11月、邑久町、牛窓町、長船町が合併し、瀬戸内市となった。人口は3.6万人、面積は125km<sup>2</sup>。西部の吉井川沿いには農地が広がり、東部は丘陵的な山地で、南部は瀬戸内海に面している。

同市の有害鳥獣の対象は、シカ、イノシシ、ヌートリア、タヌキ、アナグア、ヒヨドリ、カワウ、カモ、カラス類の9種。被害は、イノシシによるものが、4.6haで150万円。カワウ・カモが1,284万円となっていて、魚介類への影響が大きい。(海面の鳥類へは、音波による追い払いを実験中)

H26度～R4度の捕獲数は、イノシシが約9倍(177⇒1,612)、シカが3倍弱(146⇒408)と大幅な増加となっている。その大半はジビエには未利用で、ごみ焼却場の搬入し処理している。

捕獲以外の対策で実効性があるのが、防護柵の設置。防止計画では全長46kmを整備することとしており、R4度までの実績は、個別柵が28.4km、集落柵が6.2kmとなっている。

鳥獣被害防止セミナーを年に数回実施していたが、コロナ禍で中断。R3度からは年1回として再開した。

狩猟免許取得助成については、申請手数料分として5,200円(他免許追加は3,900円)。有害鳥獣被害対策実施隊は、駆除班員30名、市職員9名で構成しており、駆除班員の平均年齢は69歳。隊員の市職員はすべて担当課(産業振興課)の職員である(継続性はない)。

# 経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視察日：令和6年1月23日(火)
- ◆視察先：山口県岩国市
- ◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

## ○岩国市における観光振興施策について

同市は市長選挙戦(1/28開票)の真っ只中。1市6町で合併した岩国市は、人口12万7千人、面積は873km<sup>2</sup>と、本市より一回り大きい。

臨海には工業地域、海上自衛隊、米軍基地などがあり、錦川流域には錦帯橋、城下町のほか景勝地等が点在。昨秋には「池の水全部抜く(テレ東)」、「ブラタモリ(NHK)」が放映され、観光客の増加につながった。

観光客はコロナ禍前には年間3百万人台で推移していたが6割減。R4年は180万人弱と、回復傾向。R5年の錦帯橋入橋者数は53万人(前年比16万人増)を見込む。世界的観光地の広島県宮島からの立寄る、初回の日帰り客が多いものと認識している。外国人の誘客にもつなげるため錦帯橋の世界遺産登録を目指している。(3/23には350年記念、森高千里コンサート)

日本酒の産地であり、5つの酒蔵がある。獺祭、雁木、金雀40%(IWC最高賞)などファンが多い。山口・広島県民に人気の「いろり山賊」もある。

今後の取組としては、山口市が「今年行くべき52か所(NY紙)の3番目に選定」を機に、全県連動して誘客を図る。市役所にシティプロモーション課を設置し、旧市町ごとの観光協会を連帯化。都庁の無償ブースでのPR活動・特産品販売、錦帯橋と周辺の桜のライトアップの継続。城下町の電柱地中化、下水路・駐車場の整備などにより滞在時間の延伸・経済効果の向上。等々、観光行政に精通の山本観光振興課長は話した。

## 経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 村川 清則 】

- ◆視察日：令和6年1月22日（月）
- ◆視察先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

岡山市の農家戸数は8,498戸で、本市農家戸数の約2.5倍であり、果樹栽培・野菜栽培のほか花き・畜産業など多様な農業が営まれている。特に白桃・マスカット・ピーオーネなどの果物は全国的に有名で、売上3億超の農家もあるようである。その岡山の農業に興味を持つ就農希望者に対して、それを支援するさまざまな事業を展開している。

サポートセンターは、新規就農希望者及び新規就農者への支援体制をより強固なものにするためにJAと共同で設置しているもので、具体的には栽培作物や農地の選定などの就農に向けたアドバイスや研修のコーディネート・青年等就農計画の策定支援・各種補助金の活用支援などを行なっている。

65歳以下の就農希望者を対象に行なっている新規就農希望者体験研修事業は、市独自の事業である。また県の事業で公募制による農業体験研修、国の事業で農業実務研修などがあるが、いずれも厳しく審査を行なっているようである。特に最近の資材高騰もあり、自己資金不足や圃場のあてがないなどは落とされる大きな要因になるし、準備



- ◆視察日：令和6年1月22日（月）
- ◆視察先：岡山県瀬戸内市
- ◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

瀬戸内市においても、農山漁村における過疎化や高齢化による耕作放棄地の増加等に伴い、鳥獣による農作物被害が増加している現状にある。イノシシ・シカの捕獲頭数は平成26年に343頭だったものが、令和4年には2,020頭とこの10年で約6倍に増えている。また本市では聞いたことはないが特定外来生物のヌートリアの被害も確認されている。さらにカモ・カワウによるノリ被害も出ているようである。

その対策、特に捕獲の面で低調なのは、以前と比べ集落をまとめるリーダーが不足しているのが大きな要因であるという認識のようである。そこで個別柵と合わせて、集落ごと電気柵で囲う事業も展開しているが、これがかなり有効のようである。

瀬戸内市有害鳥獣被害対策実施隊を結成し、駆除班員30名と担当課職員9名で行っているが、駆除班の「高齢化」が大きな問題となっている。

地元の大学と提携し電波（電磁波？）による効果を実証中とのことだが、近距離でないと効果が期待できないということである。本市でも平野部において、特に路地野菜へのカモの被害が大きく、緑色のレーザーを使った実証も行われているが、これらを合体させて何かできないものかと素人感覚で考えるところである。

なおイノシシ・シカなどの肉、ジビエについては個体の処理場がないので利用することはないようである。

- ◆視察日：令和6年1月23日（火）
- ◆視察先：山口県岩国市
- ◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

岩国市は平成18年に一市六町一村で合併して誕生した自治体で、五つの観光協会がある。当初、協会の合併も模索したようだが、元々旧岩国市観光協会は一般社団法人であり、その他は商工会の中の協会ということで、「観光」に対する意識が違うといつたところからか諦めた経緯があるそうである。

岩国市は毎年約300万人の観光客が訪れる山口県を代表する観光地であるが、その9割は日帰りでありまたリピーターが少ない状況のようである。そこで近隣の世界遺産である厳島神社（宮島）とタイアップし、いわゆるコバンザメ商法を展開しているそうである。また東京都庁にある無料のスペースにおいて特産品をPRし、誘客も展開しているそうである。

外国人観光客は毎年2～3万人程度で推移しており少ない状況であるが、外国人は長期の休暇を取り旅行するので魅力があり、インバウンド増加を目指し、案内板の多言語化やQRコードによりスマホで自国語に誘導する方法を進めていきたいとのことである。

これからはコロナが収束し、日本人観光客やインバウンドの増加も期待される。本市においても秘境五家荘や日奈久温泉、石橋など外国にはない観光資源が多くあり、さらには球磨川や八代海など新たな発想で開拓すれば、いろいろな可能性を秘めている気が

